のたろん 2013 秋号

おたくのお父さん 家でゴロゴロしてませんかっ。

中高年の方の市民活動参加のお手伝い 市民活動デビューに 4Sクラブ

横須賀には、さまざまな市民活動グループがあります！

4Sクラブに登録すると…

市民活動の仲間と出会えます。
自分にあった市民活動グループが見つかります。
ボランティアとして地域に関わりが持てます。

活動体験フォーラム
『未来っ子文庫』による読み聞かせを実際に体験！

子どもたちと
「ショッパーズプラザよこすか」でのイベント…

ワークショップなども開きます！

ワークショップでは意見やアイデアを話し合ったりします。

イベントあります。気軽にご参加ください。

４Ｓクラブ主催イベント『フォーラム』では、専門的な活動をしている市民活動グループの活動を実際に体験することができたり、いろんなグループの紹介をおこなっています。次回の開催は、11 月 23 日（土）14:00 よりサポートセンターにて。2014 年 3 月には、中高年のお父さんたちを募集している市民活動グループの紹介をする４Ｓクラブ協賛の特別イベントがおこなわれる予定です。

横須賀市立市民活動サポートセンター　2013 年 10 月 1 日発行

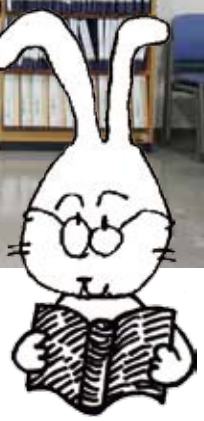
すかっこの 市民活動情報

のたろん 秋号

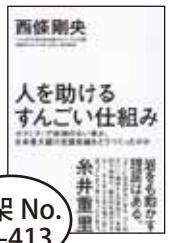
サポセンの館内施設

書架はどうでしょう！！

市民活動に関する図書・資料・市の刊行物・市民活動団体の会報ファイルを用意しています。
書架にある図書・資料は館内でご利用いただけます。貸出はしていません。



図書係さんに おすすめの本をおしえてもらいました！



書架 No. 01-413

人を助けるすんごい仕組み　ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか　西條 剛央（著）

東日本大震災の後、日本中の多くの人が「何とかしたい」「少しでも力になりたい」と思っていたと思います。「でも、どうやって？」「どうしたらいいの？」日本中が悩み苦しむ中、筆者は現実を目の当たりにして、強い使命感を持ちます。そして、ネットのスピードを利用して、素早くさまざまなプロジェクトを立ち上げていきました。その行動力・コーディネート力に驚かされます。よいアイディアはこれほど多くの人をうごかすことができるんだと教えてくれる一冊です！！

書架 No. 02-207

いまあなたにできる 50 のこと　～社会貢献、はじめの一歩～　WAVE 出版（著 編集）

困っている人を助けたい、社会の役に立ちたい。この本にはそんな思いを形にするための５０の小さな「できること」がつまっています。(原本カバーより)
30 円で世界を変えるために何ができるか、余暇時間を利用して世界を変えるために何ができるか、自分の「できること」がわかる本です。社会貢献の初めの一歩を具体的に示しています。手のひらサイズ、カラフルな色使いでかわいらしい本ですよ♪

書架 No. 13-130

明日にかかる虹　「東日本大震災」「発達障がい」と子どもたちの現実　阿蘭 ヒサコ、冨部 志保子（著）

子ども達をとりまく２つの物語が収録されています。
「明日にかかる虹」…東日本大震災で両親を失った高校生の兄と小学生の妹。その喪失の哀しみと、そこからの再生。傷ついた子どもへの寄り添い方を問う物語。
「それぞれの色」…現在全国の公立小中学校の児童・生徒の内 6.5%に発達障がいの可能性がある。発達障がいの子どもの現状と対処のヒントを示す物語。

書架 No. 17-741

新横須賀市史　別編 民族　横須賀市（編集 発行）

平成 16 年より発行している新横須賀市史シリーズの新刊『民俗』。重さ 2Kg もあるずっしりした本。横須賀の風俗や習慣、伝説、生活用具など古くから民間で伝承されてきた身近な暮らしの歴史や行事のようすが満載！！地元のことだから楽しく読めます。
おすすめのページは「横須賀のパン文化」と「漁具にみる技ータコツボを中心としてー」。

ひと ～市民活動を支える人たち～

横須賀インディアカ協会
長谷川　忠信さん

飾り気のない語り口に、スポーツマンシップを感じる。インディアカ協会、ユースホステル協会など、多くの団体の取りまとめ役、長谷川さんにお話を伺った。

中学１年の３学期、３年生が引退したソフトテニス部に誘われて入部。高校でも続けたソフトテニスは、大学進学後も高校の OB 会で続け、今に至っている。

大学は農学部。卒業後、中学の理科教師になった。「人に点数をつけるのが嫌でね。向いてなかったんでしょう。」県営の社会福祉施設の職員に転職する。

在職中は、隣保施設、老人ホーム、学童保育などを担当した。学童保育を担当したときは、大変ではあったが、毎日のおやつに、クッキー、プリン、そしてシュークリームなど、本を見ながら児童と一緒に作った楽しい思い出がある。一番思い出深いのは、北欧をまわった視察。先端の福祉施設と文化を学んだ旅だった。

仕事の傍ら、ユースホステル協会に入会、横須賀ユースホステル協会の設立メンバーに加わった。市の呼びかけに応え、横須賀ユースホステル協会など４団体で横須賀レクリエーション協会を設立した。

インディアカをはじめたきっかけは、レクリエーション協会の開催したインディアカ講習会。講習会終了後も続けたいという人が集まりクラブができた。長谷川さんは横須賀にあるクラブ４団体に声をかけ、横須賀インディアカ協会を設立する。その後、県の協会の設立にもかかわり、県から国の協会、そして、国際インディアカ協会の設立メンバーとしてドイツで開かれた設立総会に参加、2000 年にエストニアで開かれた第１回の世界大会に選手として参加する。その後、選手として、審判として、応援団として世界選手権、ワールドカップに参加している。

「インディアカをはじめたときは、世界（国際大会）はなかった。世界に行けたこと、世界に通じたこと、インディアカに出会ってよかったと思う。」父は、海軍の練習艦隊で、世界を２周回った国際派。子どもたちに国際的に活躍してほしいという気持ちが強かった。姉、妹は海外生活、長谷川さんもいつしか世界を目指していた。

定年を迎える頃、90 歳で母が倒れた。兄姉妹は遠地にいた。次男の長谷川さんは、インディアカ協会など多くの団体で活動する中、ヘルパーの資格を取り、ショートステイなど使いながら、100 歳の母を、自宅で看取るまで介護した。

現在でも、インディアカ協会（日本協会、県協会、市協会）、スポーツボランティアバンク、レクリエーション協会（県協会、市協会）、横須賀ユースホステル協会の役員をされる一方、生活支援員として地域の家庭をまわり、ソフトテニスを週２回、インディアカを週３回楽しんでいる。

「一生遊び人間でいましてね。」と照れくさそうに語る長谷川さん、何事も遊び～楽しいこと興味のあること～に変えてしまう不思議な力を持っているのかも知れない。そして何より、人の強さとやさしさを感じたインタビューだった。　（はこざき）

長谷川さんが関わっていらっしゃる団体はたくさんあるので、それぞれの詳細は誌面では紹介しきれません。すべてサポートセンターの登録団体なので、興味のある団体についてはサポートセンターにお問い合わせください。それぞれ、会員募集中だそうです。長谷川さんと一緒に楽しく汗を流しませんか？

not alone　not alone　not alone

夏の市民活動･ボランティア体験2013

～参加団体　35 団体～

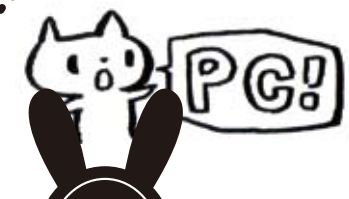
参加者総数
2471 名

～お年寄りと楽しく交流～

神奈川県立保健福祉大学、関東学院大学で「夏の市民活動・ボランティア体験」授業内での参加団体イベント紹介を行い、学生に活動のＰＲをする機会を得ました。その結果、多くの若者が「夏の市民活動・ボランティア体験」に参加したという、嬉しい結果につながりました。

～救急法を学びました～

団体を運営するにあたり、よく聞く悩みの一つに「次世代の人材確保」があります。「夏の市民活動・ボランティア体験」は次世代の活動の担い手である若者が、市民活動・ボランティアに参加するキッカケになるように企画しています。夏の体験に参加した若者が市民活動やボランティアに興味を持って、今後も継続して活動する仕掛けを団体の皆さんと考えていこうと思います。



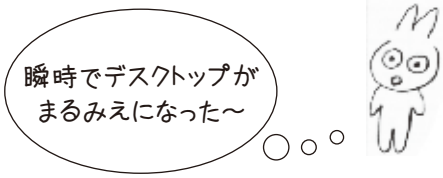
のたろんの

パソコン・箸やすめ

デスクトップが 私を必要としてるの♥

デスクトップのアイコンを今すぐクリックしたいとき

そんなとき。。。


瞬時でデスクトップが
まるみえになった～

いっしょに覚えちゃおう♪

複数ひらいてるアプリケーションの切り替えは
〔Alt〕を押しながら〔Tab〕を連打連打連打...

ショートカットコマンドを使うと楽しいね～

まどろみ

近頃、同年代の人達が立ち話をしていたり、買い物をするはつらつとした姿に出会うと、微笑ましいし、うらやましい。

大病をして退院した当座、目はくぼみ、やつれていたので、人前に出るのが嫌だった。その頃、用事で近所に出掛けた時、たまに出会っていた人から「やせたけど、どうかした?」と聞かれた。元気を装って外出しただけに、とっさに言葉を濁した。が、素直に案じてもらえたことで、気持ちを持ち直した。

一方、三十年来の友人Sさんは、2、3日おきに「どう、変わりない?」と電話かメールをくれる。甲高い声と笑顔が目の前に飛び込んでくる。5才年上のSさんは、いくつもの病を克服してきた。それだけに今は私の良きアドバイザーでもある。他市に住むSさんは、俳句、詩吟、絵画と多趣味である。それぞれの教室での話題を話してくれる。2人の何時もの取り留めのない雑談は、時にハッとさせられたり、元気をもらったり、楽しいひとときでもある。年を重ねて心置きなく話し合える友達は、何物にも替え難い。

著名人がある誌上で「老いては財より友人」と語っていたが、正に、と思った。真の友達は一朝一夕にはできない。多くはないが、友達とは今まで通り、つかず離れずの感覚で、これからも付き合えたらいいと思っている。(田中)

********** サポセンtopicsトピックス

団体のPRに♪ 活動紹介コーナー

横須賀市立市民活動サポートセンターの中央に、「活動紹介コーナー」というスペースがあります。パネルを使って団体の活動を紹介し、活動をPRしたり、会員募集をしたりできます。また、イベントの告知などにも利用できます。サポートセンターに登録のある市民公益活動団体が、年に 2 回利用できます。1回の展示期間は設営と撤収を含め 2 週間です。奮ってご活用ください。

のたろんがお送りする「のたろんジャーナル」

のたろんジャーナル

◆サポセン発信情報(カメラ付き携帯で読み取れます)
◆E メール info@yokosuka-supportcenter.jp
◆サポートセンターのホームページ
「のたろん Web」は“のたろん”で検索♪ のたろん 検索

情報誌「のたろん」秋号(通巻 56 号) 2013 年 10 月 1 日
発行 横須賀市立市民活動サポートセンター
編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート
横須賀市本町 3-27(京浜急行汐入駅徒歩 1 分)
TEL 046-828-3130
FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用表のご記入をお願いします。

編集ボランティア/はこざき・たなか・みずたに スタッフ/ぬまさき・のぎむら